
**2013年3月期
第2四半期決算 及び 通期業績見通し
説明資料**

帝人株式会社

2012年11月2日

第2四半期決算概況

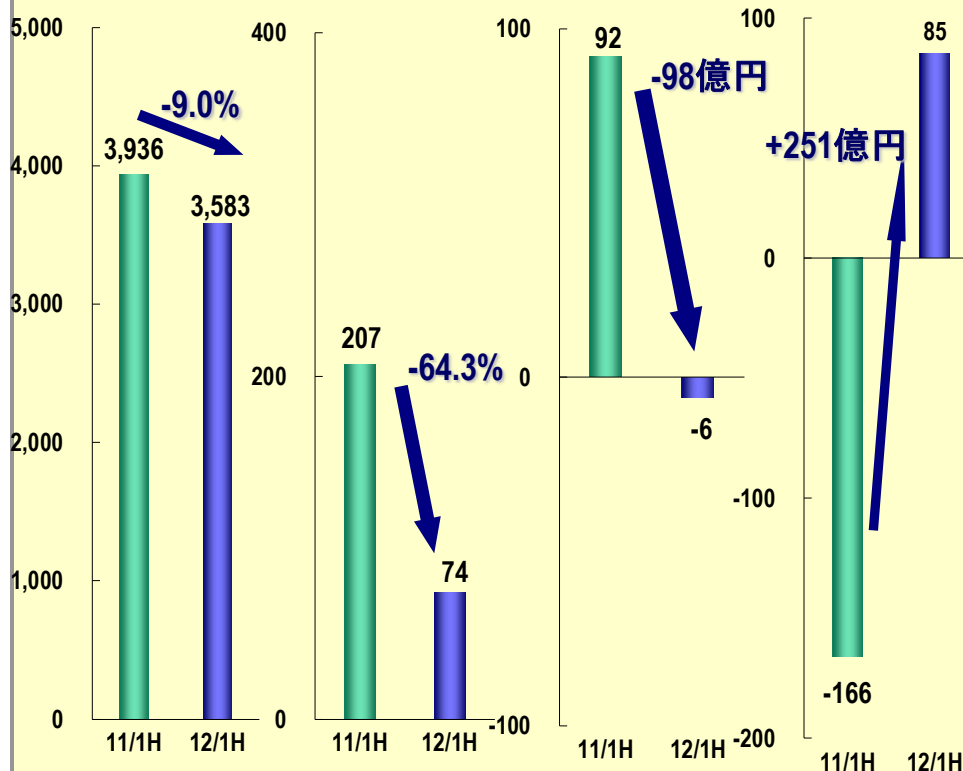
(1) 2013年3月期 第2四半期決算概況

(億円)

年度累計

(前年同期比)

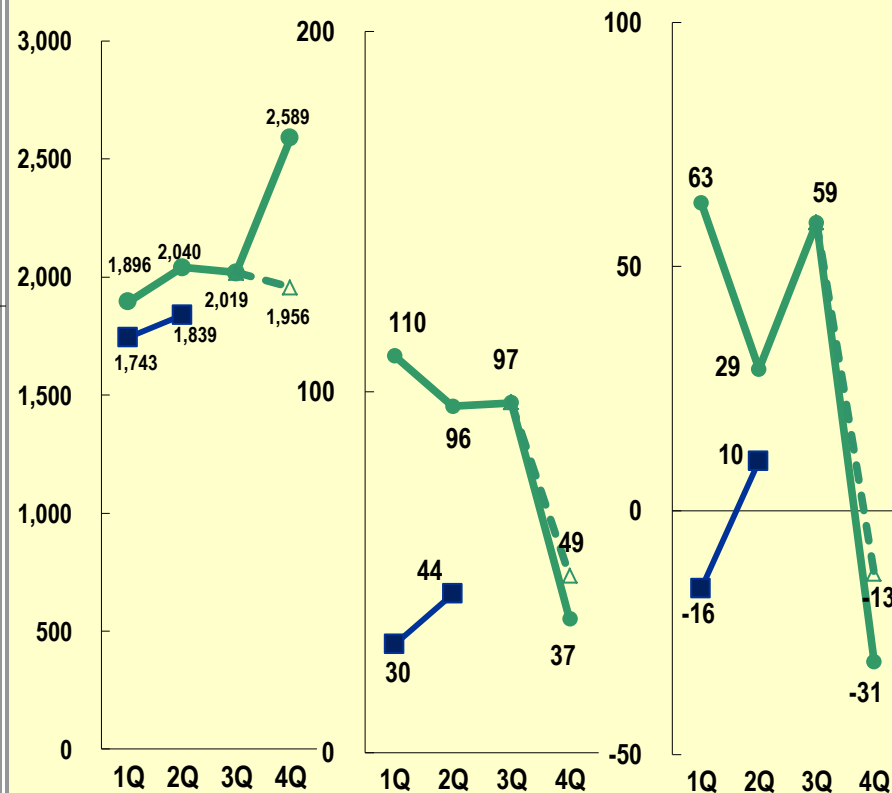
売上高 営業利益 四半期純利益 FCF



四半期推移

● 11年度 ■ 12年度

売上高 営業利益 四半期純利益



* △は決算期統一影響を除いた額

◆ 経営成績

(億円)	11年度 上期	12年度 上期	差異 金額
売上高	3,936	3,583	-353
営業利益	207	74	-133
<営業利益率>	5.2%	2.1%	-
営業外損益	10	-25	-35
経常利益	217	49	-168
特別損益	-20	-9	+11
税金等調整前 四半期純利益	197	40	-157
法人税等	94	46	-48
少数株主損益	12	0	-11
四半期純利益	92	-6	-98
EPS(円)	9.33	-0.60	-9.94

EBITDA *1	438	300	-139
設備投資 *2	129	165	+36
減価償却費	232	226	-6
研究開発費	152	157	+5
FCF	-166	85	+251

➤ 売上高、営業利益 減収・減益

- ・素材事業：世界的な景気減速により販売量減少、一部を除き販売価格下落
- ・ヘルスケア：薬価改定、競合激化

➤ 経常利益減：持分法による投資利益減少

➤ 純利益減：特別損益改善も、税効果等により損失計上

◇ PL換算レート

	11年 上期* (1~6月)	12年 上期 (4~9月)
円/米ドル	82	79
円/ユーロ	115	101
米ドル/ユーロ	1.40	1.27

*決算期統一前のため、上期は1~6月のレートを使用

◆ 特別損益等

(億円)	11年度 上期	12年度 上期	差異 金額
固定資産売却益	1	8	+7
関係会社株式売却益	7	-	-7
その他	2	0	-1
特別利益 計	10	9	-1
固定資産除売却損	2	4	+2
投資有価証券評価損	7	1	-5
減損損失	10	7	-3
貸倒引当金繰入額	4	-	-4
震災関連費用	4	-	-4
洪水関連費用	-	3	+3
その他	3	2	-1
特別損失 計	29	17	-12
特別損益 計	-20	-9	+11

法人税等	94	46	-48
少数株主損益	12	0	-11

➤ 特別損益改善: +11億円

- ・投資有価証券評価損(減) +5億円
- ・震災関連費用(発生なし) +4億円

➤ 法人税等

- ・税前利益 40億円



のれん償却
税効果(赤字会社等)

⇒法人税等 46億円

四半期純利益 ▲6億円

◆財政状態

(億円)	12年3月末	12年9月末	差異	内 為替 換算影響
総資産	7,621	7,318	-303	-149
自己資本	2,920	2,789	-132	-55
有利子負債	2,610	2,523	-87	-56

D/Eレシオ	0.89	0.90	+0.01
自己資本比率	38.3%	38.1%	-0.2%

➤総資産減少:

- ・ 運転資本ほぼ横ばいも、保険金収入により未収金減少
- ・ 減価償却の進捗による固定資産残高の減少

➤自己資本減少:

- ・ 四半期純損失の計上
- ・ 有価証券評価差額金の減少

➤有利子負債減少:

- ・ 為替換算影響

◆キャッシュ・フローの状況

(億円)	営業活動	投資活動	FCF	財務活動 他	現金及び 現金同等物 増減
12年度 9月期	269	-184	85	-57	28
11年度 9月期	16	-183	-166	145	-21

◇BS換算レート

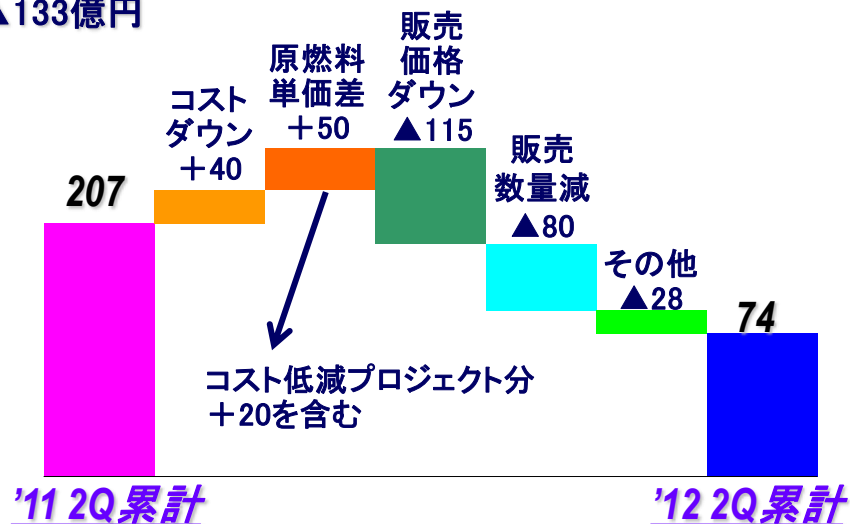
	12年 3月末	12年 9月末
円 / 米ドル	82	78
円 / ユーロ	110	100
米ドル / ユーロ	1.34	1.29

◆ 経営成績及び財政状態増減内訳

◇ 営業利益

▲133億円

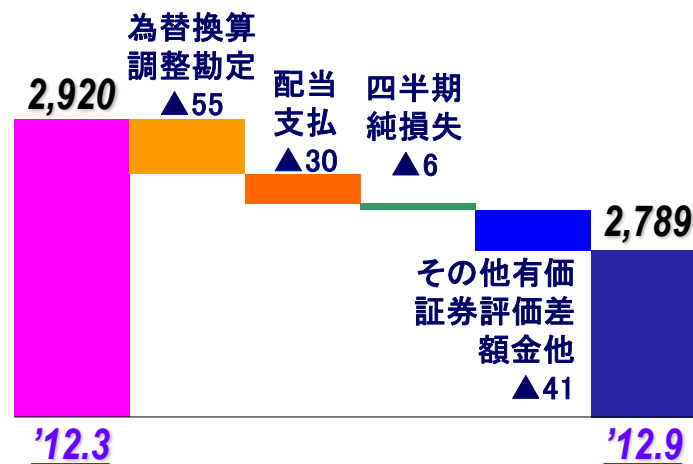
(億円)



◇ 自己資本

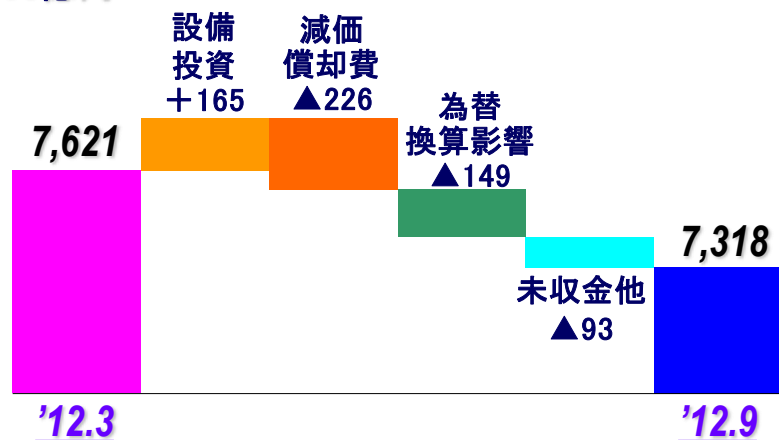
▲132億円

(億円)



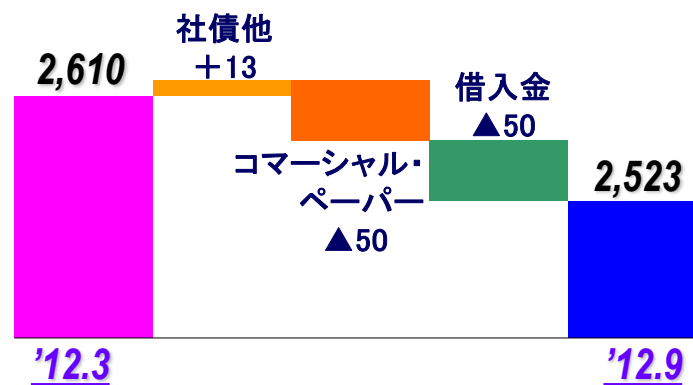
◇ 総資産

▲303億円



◇ 有利子負債

▲87億円



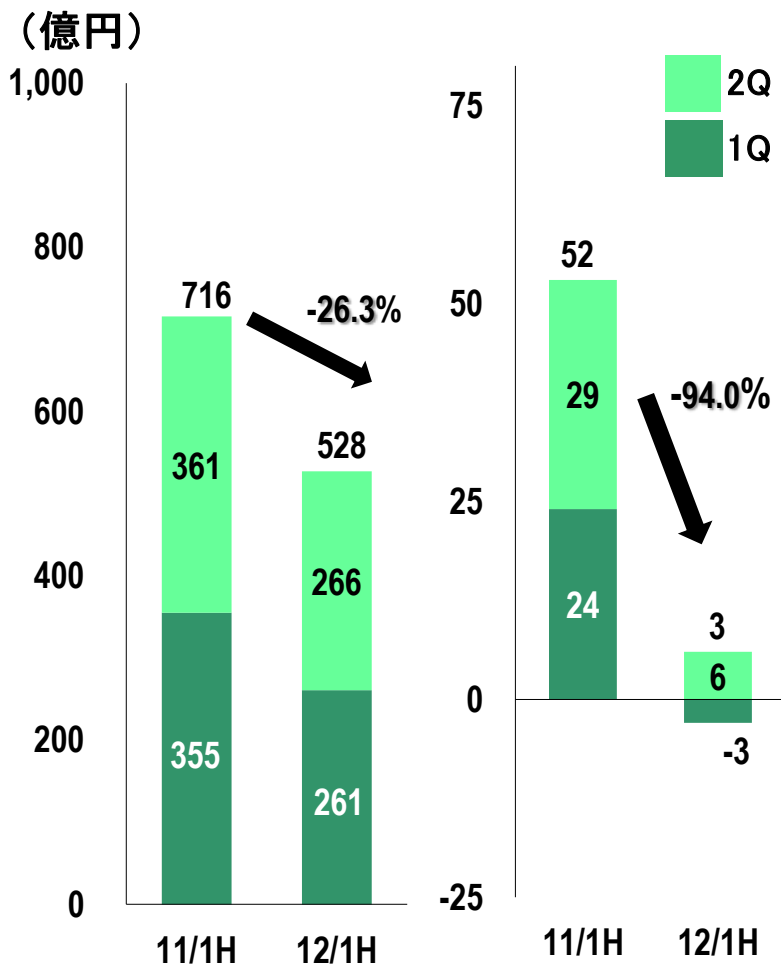
(2) セグメント別 売上高・営業利益比較(対 前年同期)

(億円)	売上高				営業利益			
	11年度 上期	12年度 上期	差異	増減率	11年度 上期	12年度 上期	差異	増減率
高機能繊維・複合材料	716	528	-188	-26.3%	52	3	-49	-94.0%
電子材料・化成品	930	884	-45	-4.9%	57	15	-43	-74.4%
ヘルスケア	680	643	-37	-5.5%	119	93	-26	-22.0%
製品	1,235	1,157	-78	-6.4%	30	22	-9	-28.5%
計	3,560	3,211	-349	-9.8%	259	132	-127	-48.9%
その他	375	371	-4	-1.1%	13	6	-8	-58.1%
消去又は全社	—	—	—	—	-66	-64	+2	—
合計	3,936	3,583	-353	-9.0%	207	74	-133	-64.3%

①高機能繊維・複合材料事業(旧・高機能繊維+ポリエステル繊維(産業資材))

売上高

営業利益



(億円)	11/1H	12/1H	差異	増減率
売上高	716	528	-188	-26.3%
営業利益	52	3	-49	-94.0%

◆事業概況

◇アラミド繊維:

パラアラミド繊維:

- ・自動車関連用途、光ファイバー用途は堅調
- ・防弾・防護用途需要の調整局面継続

メタアラミド繊維:

- ・欧州景気後退により需要低迷

◇炭素繊維・複合材料:

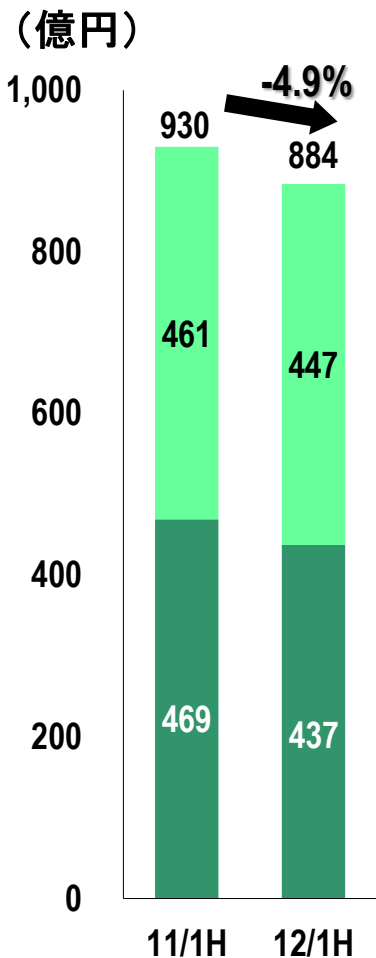
- ・航空機用途は順調な出荷継続
- ・北米で圧力容器用途の需要拡大
- ・その他一般産業・レクリエーション用途は需要・価格とも軟調に推移

◇ポリエステル繊維(産業資材):

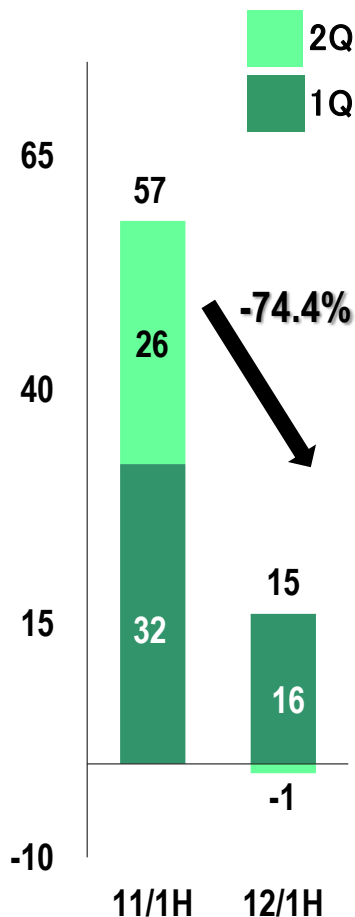
- ・自動車用途、水処理RO膜用基布、衛生材料用途等、総じて堅調に推移

②電子材料・化成品事業(旧・化成品)

売上高



営業利益



(億円)	11/1H	12/1H	差異	増減率
売上高	930	884	-45	-4.9%
営業利益	57	15	-43	-74.4%

◆事業概況

◇樹脂:

市場減速の中で販売量確保に注力、
8割超の生産稼働率を維持

PC樹脂:

- ・電気・電子、押出し(シート原料)、雑貨、光学用途向けが堅調に推移

樹脂加工品:

- ・自動車銘板・自販機のダミー缶向け堅調
- ・透明導電性フィルム好調
- ・スマートフォン用カメラレンズの販売増加

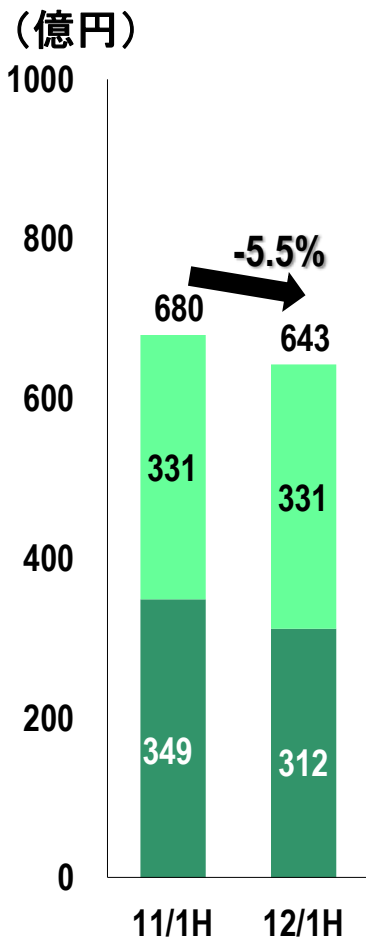
◇フィルム:

主力用途の販売低迷

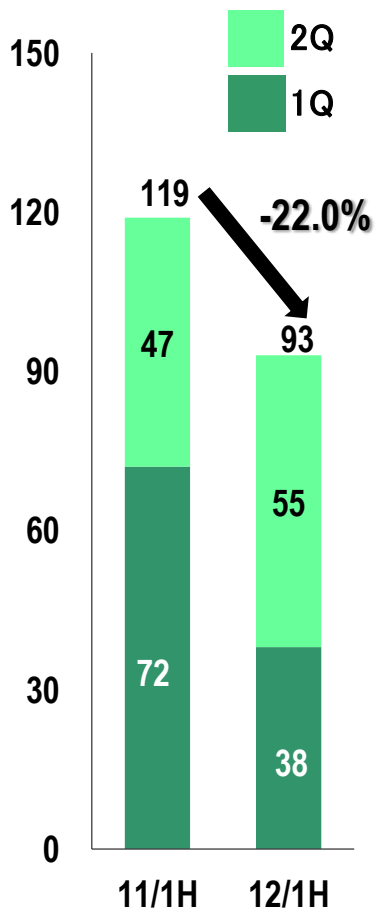
- ・LCD、太陽電池向けの需要回復遅れ
- ・スマートフォン・タブレット端末関連好調

③ヘルスケア事業(旧・医薬医療)

売上高



営業利益



(億円)	11/1H	12/1H	差異	増減率
売上高	680	643	-37	-5.5%
営業利益	119	93	-26	-22.0%

◆事業概況

◇医薬品:

薬価改定影響に加え骨粗鬆症治療剤の競争激化するも、新薬の販売堅調

- ・痛風・高尿酸血症治療剤「フェブキシソスタット」
国内では長期処方解禁により急速に販売拡大
海外でも欧米に続き、アジアで展開中
- ・骨粗鬆症治療剤「ボナロン*」
日本初となる点滴静注型の販売拡大(5月～)

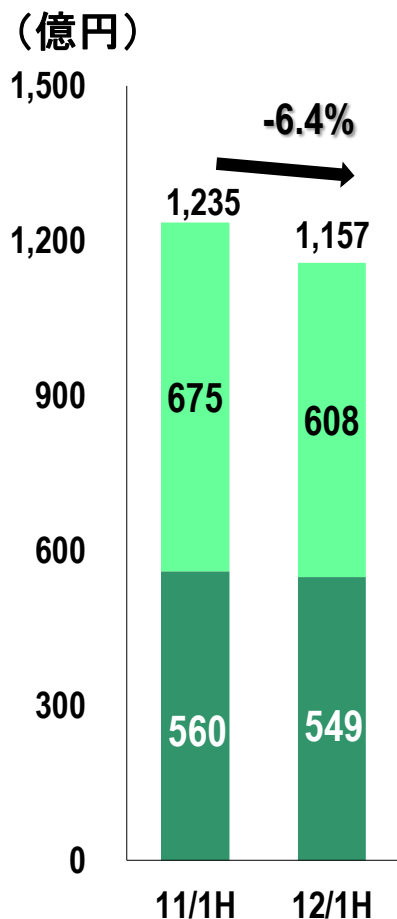
◇在宅医療:

- ・HOT: 高水準のレンタル台数を維持
- ・CPAP: 携帯電話網の活用によるモニタリング機能を搭載した「ネムリンク」を投入

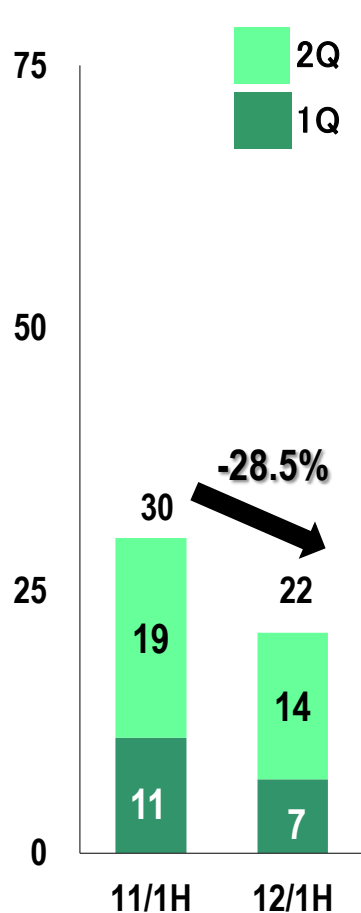
* ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

④製品事業(旧・流通リテイル+ポリエステル繊維(アパレル))

売上高



営業利益



(億円)	11/1H	12/1H	差異	増減率
売上高	1,235	1,157	-78	-6.4%
営業利益	30	22	-9	-28.5%

◆事業概況

◇流通・リテイル:

衣料繊維:

- ・猛暑による秋物販売の遅れ等、小売市況は低調に推移
- ・アセアン地域での生産体制の拡充を推進 (ベトナム、ミャンマー、インドネシア、バングラデシュ) ⇒生産効率化・サプライチェーン安定化

産業資材:

- ・自動車関連部材はエコカー減税を背景に好調
- ・土木建築関連も復興需要に支えられ堅調

◇ポリエステル繊維(アパレル):

- ・全般的に市況軟調、価格競争激化

◆セグメント別 四半期売上高・営業利益推移

		11年度実績			12年度実績		
		1Q	2Q	上期計	1Q	2Q	上期計
(億円)							
売上高	高機能繊維・複合材料	355	361	716	261	266	528
	電子材料・化成品	469	461	930	437	447	884
	ヘルスケア	349	331	680	312	331	643
	製品	560	675	1,235	549	608	1,157
	計	1,733	1,828	3,560	1,560	1,652	3,211
	その他	163	212	375	184	187	371
	合計	1,896	2,040	3,936	1,743	1,839	3,583
営業利益	高機能繊維・複合材料	24	29	52	-3	6	3
	電子材料・化成品	32	26	57	16	-1	15
	ヘルスケア	72	47	119	38	55	93
	製品	11	19	30	7	14	22
	計	138	121	259	58	74	132
	その他	3	11	13	4	2	6
	消去又は全社	-31	-35	-66	-32	-32	-64
合計	110	96	207	30	44	74	

通期業績見通し

(1) 環境認識

◆ 欧州における景気低迷の長期化

- 財政予算緊縮化、各種公共プロジェクトの見直し・実施時期先送り

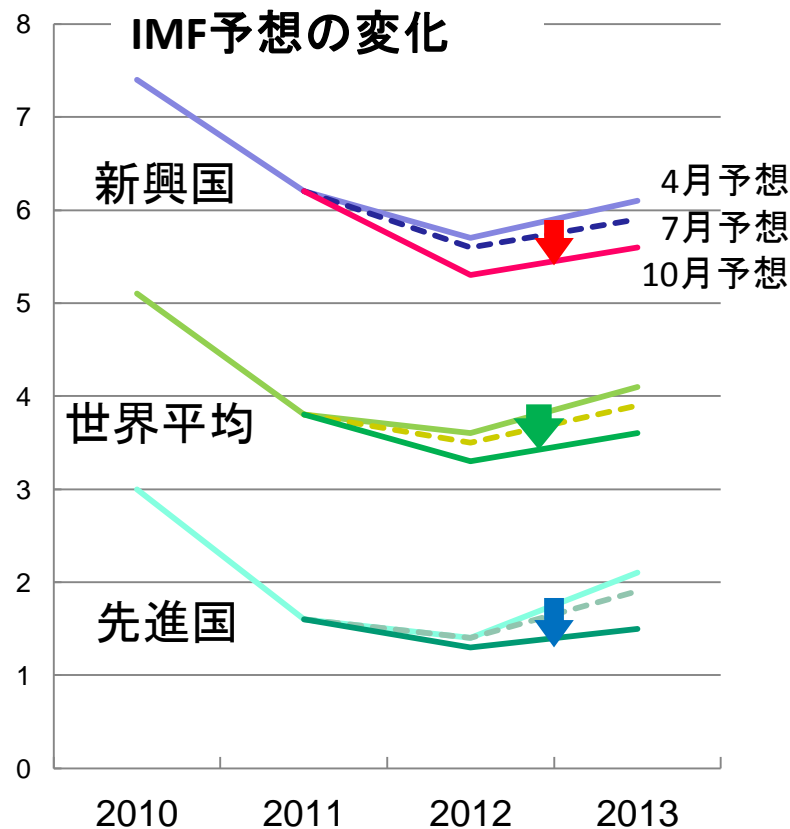
◆ 中国など新興国経済の減速

- 一部の素材ビジネスの需給バランス軟化が再燃し、価格競争が激化
- 日中関係悪化に伴う日本製品への不買運動も懸念材料

GDP成長率(%)

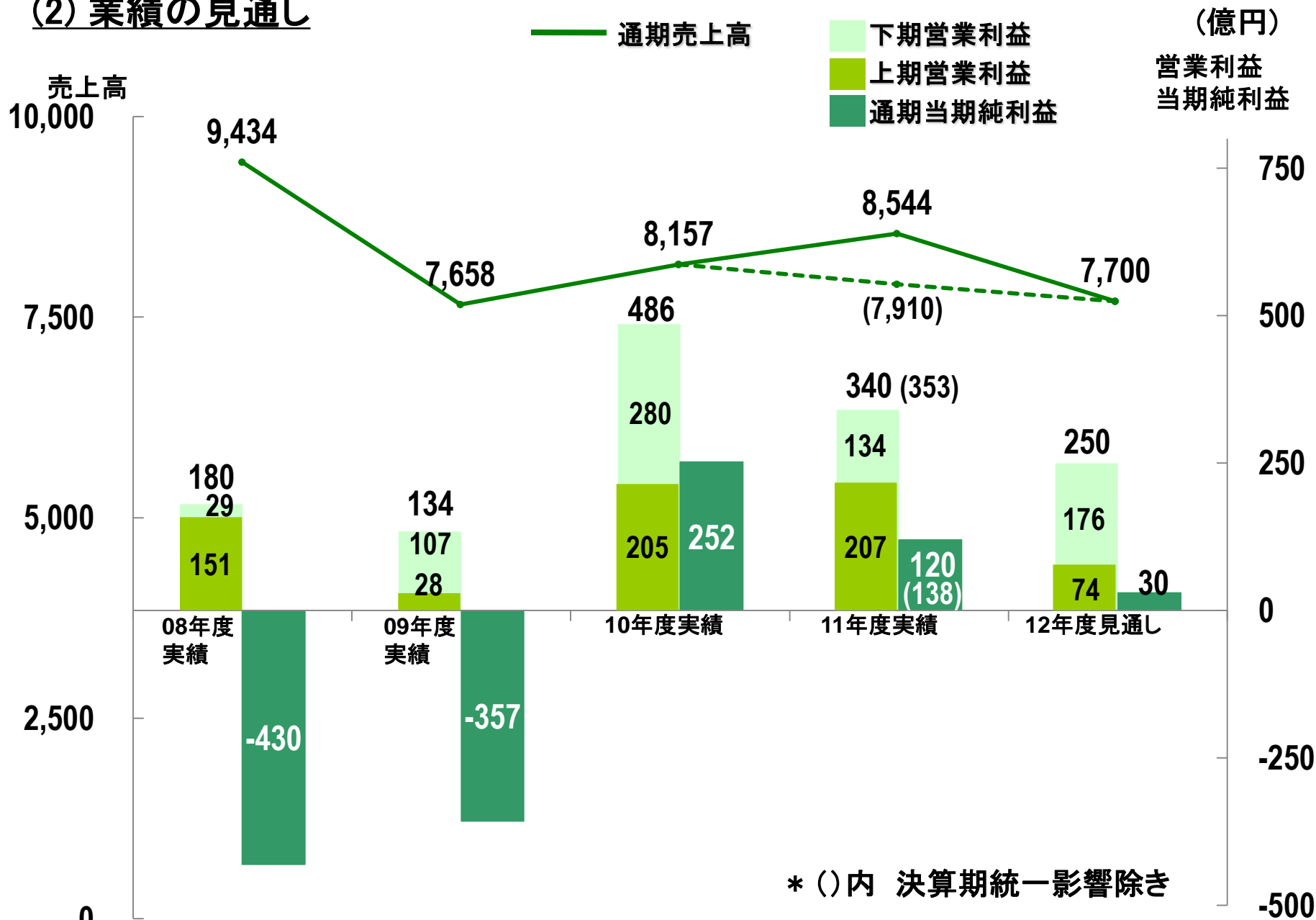
	2010	2011	(予測) 2012	(予測) 2013
全世界	5.1	3.8	3.3	3.6
先進国	3.0	1.6	1.3	1.5
米国	2.4	1.8	2.2	2.1
欧州	2.0	1.4	-0.4	0.2
日本	4.5	-0.8	2.2	1.2
新興国	7.4	6.2	5.3	5.6
中国	10.4	9.2	7.8	8.2

IMF統計(2012年10月)



IMF統計データより

(2) 業績の見通し



(3) 通期業績見通しの概況

(億円)	11年度	12年度 今回見通し	差異	
			金額	%
売上高	8,544 (7,910)	7,700	-844 [-210]	-9.9% [-2.7%]
営業利益	340 (353)	250	-90 [-103]	-26.6% [-29.2%]
<営業利益率>	4.0% (4.5%)	3.2%	—	-0.7% [-1.2%]
経常利益	343 (359)	200	-143 [-159]	-41.7% [-44.3%]
当期純利益	120 (138)	30	-90 [-108]	-75.0% [-78.3%]

設備投資*1	323	450	+127	+39.3%
減価償却費	523	500	-23	-4.4%
研究開発費	318	340	+22	+6.8%

*2 前回見通しは2012年8月2日に公表

12年度 前回見通し*2	前回見通し との差異 (金額)
8,000	-300
350	-100
4.4%	-1.2%
330	-130
120	-90

500	-50
500	—
340	—

*1 設備投資には無形固定資産を含む

■ 中間配当及び期末配当予想

中間配当	2.0円/株
期末配当	2.0円/株の見通し
年間配当	4.0円/株の見通し

■ 2012年度見通し前提

	前回見通し*2	今回見通し
米ドル	80円	80円
ユーロ	97円	100円
原油(Dubai)	105米ドル/バレル	108米ドル/バレル

セグメント別 売上高・営業利益推移(前回見通し対比)

(億円)		前回見通し*			今回見通し			年間 差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	
売上高	高機能繊維・複合材料	550	650	1,200	528	672	1,200	—
	電子材料・化成品	900	950	1,850	884	916	1,800	-50
	ヘルスケア	650	850	1,500	643	807	1,450	-50
	製品	1,200	1,350	2,550	1,157	1,293	2,450	-100
	計	3,300	3,800	7,100	3,211	3,689	6,900	-200
	その他	400	500	900	371	429	800	-100
	合計	3,700	4,300	8,000	3,583	4,117	7,700	-300
営業利益	高機能繊維・複合材料	5	25	30	3	2	5	-25
	電子材料・化成品	20	60	80	15	10	25	-55
	ヘルスケア	90	190	280	93	187	280	—
	製品	20	50	70	22	38	60	-10
	計	135	325	460	132	238	370	-90
	その他	15	30	45	6	34	40	-5
	消去又は全社	-80	-75	-155	-64	-96	-160	-5
合計	70	280	350	74	176	250	-100	

*前回見通しは2012年8月2日に公表

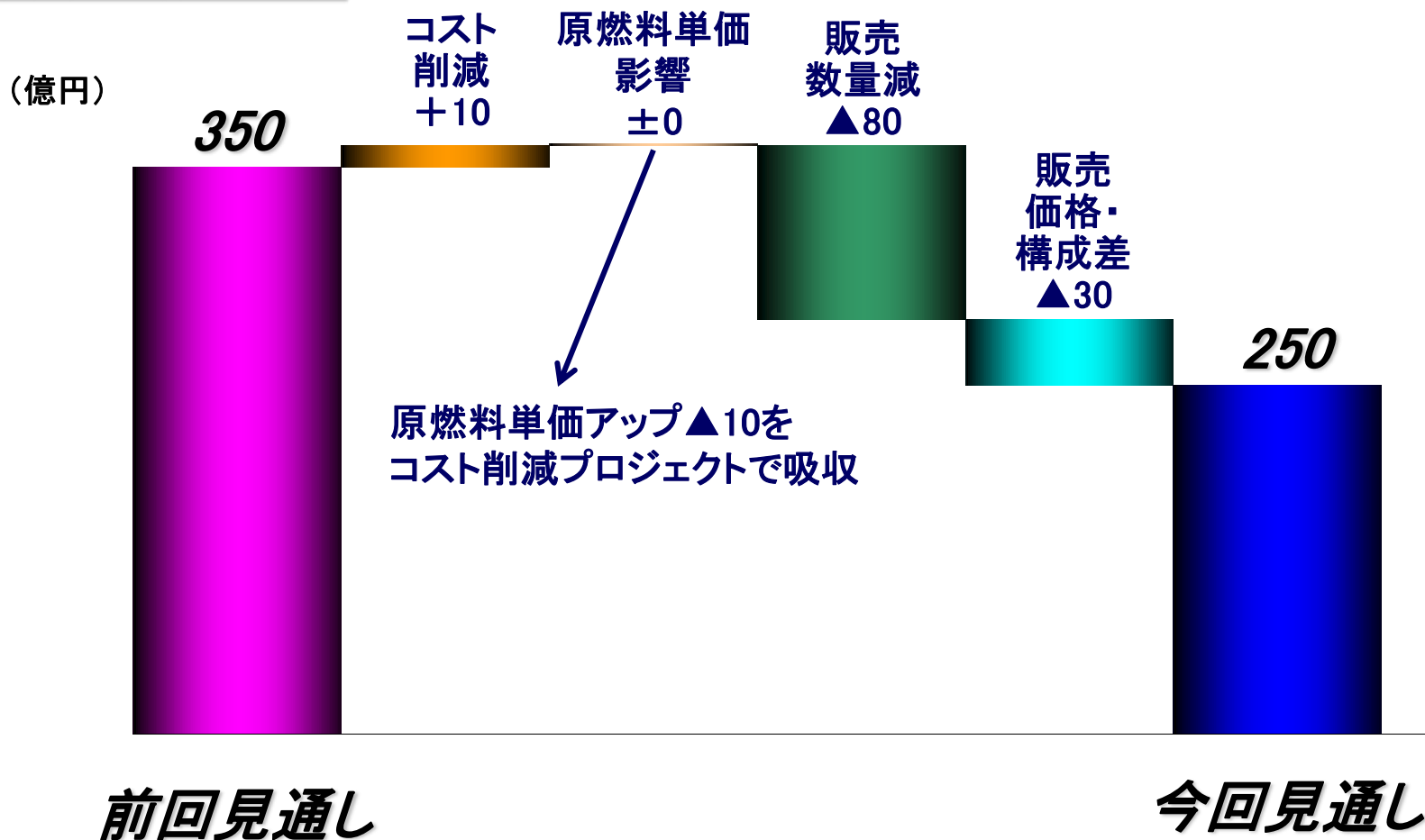
(4) 前回見通しとの差異

グローバルでの景気後退に伴い、素材需要の急回復を期待することは困難

⇒素材事業の販売量減少、及び競争激化に伴う価格圧力を織り込む

⇒全社を挙げてコストダウンプロジェクトを推進中、対策を更に追加

営業利益増減 内訳



(5) 成長戦略と緊急対策

- 中長期経営ビジョンで掲げた「ソリューション提供型ビジネス」への転換を目指した、「4つのポートフォリオ変革」を軸とする成長戦略の基軸は不変
- ビジョンの実現に向けた競争力強化のため、

営業力強化	コストダウン	グループ機構改革	M&Aの推進
-------	--------	----------	--------

について、全社横断的推進チームと各事業・機能が一体となり展開中
- しかしながら、グローバル経済環境の悪化に伴う収益状況の悪化に鑑み、
 - ・ 事業／プロジェクト毎に、更にメリハリをつけた資源投入
 - ・ コスト削減の一層の強化と前倒し実施
 - ・ 一部の素材事業における生産体制の見直し等の緊急対策を検討・実施し、収益の下支えを図る

(6) 主力事業の事業環境と今後のアクション

事業	足下の環境	アクション
アラミド繊維	<ul style="list-style-type: none"> ・防弾・防護用途は調整局面 ・欧州自動車向けも軟化 	<ul style="list-style-type: none"> ・新興国での用途開発強化 (中国での技術サービス拠点設置等)
炭素繊維 ・複合材料	<ul style="list-style-type: none"> ・各社増設により競争激化 ・一般産業・スポーツ・レジャー用途は需要低迷から価格下落 	<ul style="list-style-type: none"> ・北米 圧力容器販売拡大 ・電磁波シールド等の成長用途拡大
電子材料 ・化成品	<ul style="list-style-type: none"> ・エレクトロニクス関連の需要低迷 ・スマートフォン・タブレット関連は好調 ・中国での日本製品に対する不買運動の影響を懸念 	<ul style="list-style-type: none"> ・高機能製品の拡充 フィルム: LED-TV向け反射板、高耐久太陽電池バックシート 樹脂: コンパウンド品構成の幅出しによるソリューション提供 加工品の拡大 (透明導電性フィルム、逆波長分散フィルム)
ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"> ・骨粗鬆症分野の競争激化 (ただし、後発品は6月以降頭打ち) ・痛風治療剤の米国でのガイドライン改定 ・TPUSA社*、痛風領域フランチャイズ強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボナロン新剤形投入によるシェア回復 ・フェブキソスタット、国内外で順調な拡大 ・CPAPの新機能を活用したレンタル台数増加、スリープラボ拡大

* 武田ファーマシューティカルズUSA, Inc.

(7) 中長期経営ビジョンの推進状況

●注力5分野への取り組み

モビリティ

CFRTPの早期実用化に向けて開発推進
松山テストプラントの稼働

環境・エネルギー

ケミカルリサイクル 中国展開

情報・ エレクトロニクス

セパレータ 韓国新工場 稼働開始
タッチパネル向け拡大

ライフ プロテクション

高機能ポリエチレン 本格稼働へ
新興国への防弾用途展開

ヘルスケア

フェブキソスタットの順調な拡大
パイプラインの拡充

モビリティ

◆熱可塑性 炭素繊維複合材料

CFRP量産化時代の幕開けに向け、着実な布石

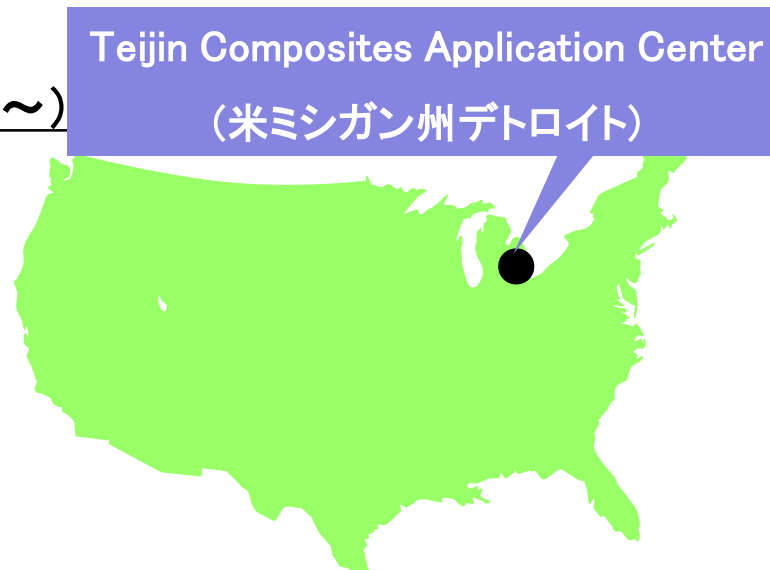
・松山 パイロットプラント稼働へ (2012年11月～)

- ・炭素繊維からコンポジット製品の成形加工までを1分以内で連続一貫生産
(月産1万個/月 以上)
- ・量産自動車に加え、一般産業用途まで視野に

・北米 複合材料用途開発センター (2012年4月～)

- ・米国での用途開発を展開
- ・GMとの共同開発も着実に進展

⇒ 複合材料開発センター(御殿場)との連携において市場開拓を強力に推進
早期にコンポジット製品事業を本格展開へ



情報・エレクトロニクス

◆革新的LiBセパレータ

- ・韓国生産拠点は7月に予定通り竣工し、稼働を開始
- ・既に8月より複数メーカーに向け出荷開始
欧米大手のスマートフォン・タブレットPC向けサンプルワークも進捗、一部で採用決定になる等、順調な滑り出し
- ・売上目標
2015年:100億円 / 2020年:200億円(自動車向け拡大)
2系列目の設置も視野に

◆タッチパネル向け

- ・抵抗膜方式(PC基材)
ゲーム機器
- ・静電容量方式(PET基材)
スマートフォン・タブレット端末
- ・静電容量方式(PC基材)



順調な伸び
取り組み拡大



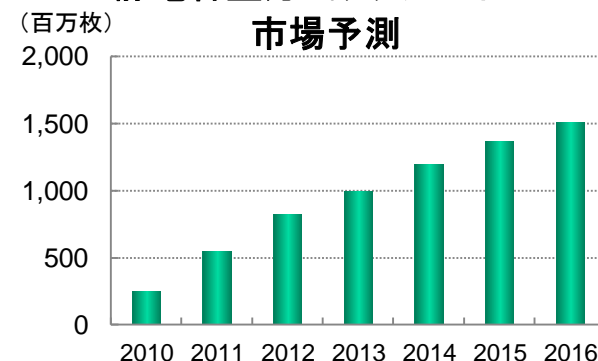
認定作業推進

- ・新たなフィルム製膜設備が稼働(2012年10月～)

透明導電性フィルムをはじめ、より高付加価値のフィルム製膜が可能



静電容量方式タッチパネル
市場予測



出典: 富士経済

環境・エネルギー

◆ポリエステルリサイクル事業

・中国の国家戦略の流れ/政府支援

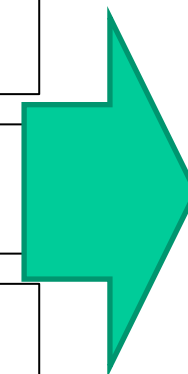
第12次5カ年計画の戦略新興産業「省エネ・環境保全事業」

・中国の巨大な市場

中国ポリエステル繊維生産：年産2,600万トン（世界の50%超）

・帝人の先進技術

ケミカルリサイクル技術・差別化ポリマー製造技術



新たな
ビジネスの
構築

浙江佳人新材料有限公司 = リサイクル原料調達/DMT～ポリマー～原糸生産

現地企業との合併（帝人49%）、2014年稼働開始予定

第1期生産能力2万トン/年（DMTベース）、第2期5万トン/年の増設も視野に

帝人(中国)商品開発センター（江蘇省南通市）= 差別化原糸・テキスタイル商品開発

リサイクル投入原料の選定、環境認定制度・仕組みの制定（ラベル支給）

中国でのケミカルリサイクル原糸供給基地の獲得

⇒高品質なケミカルリサイクル繊維製品による中国の新規マーケット形成

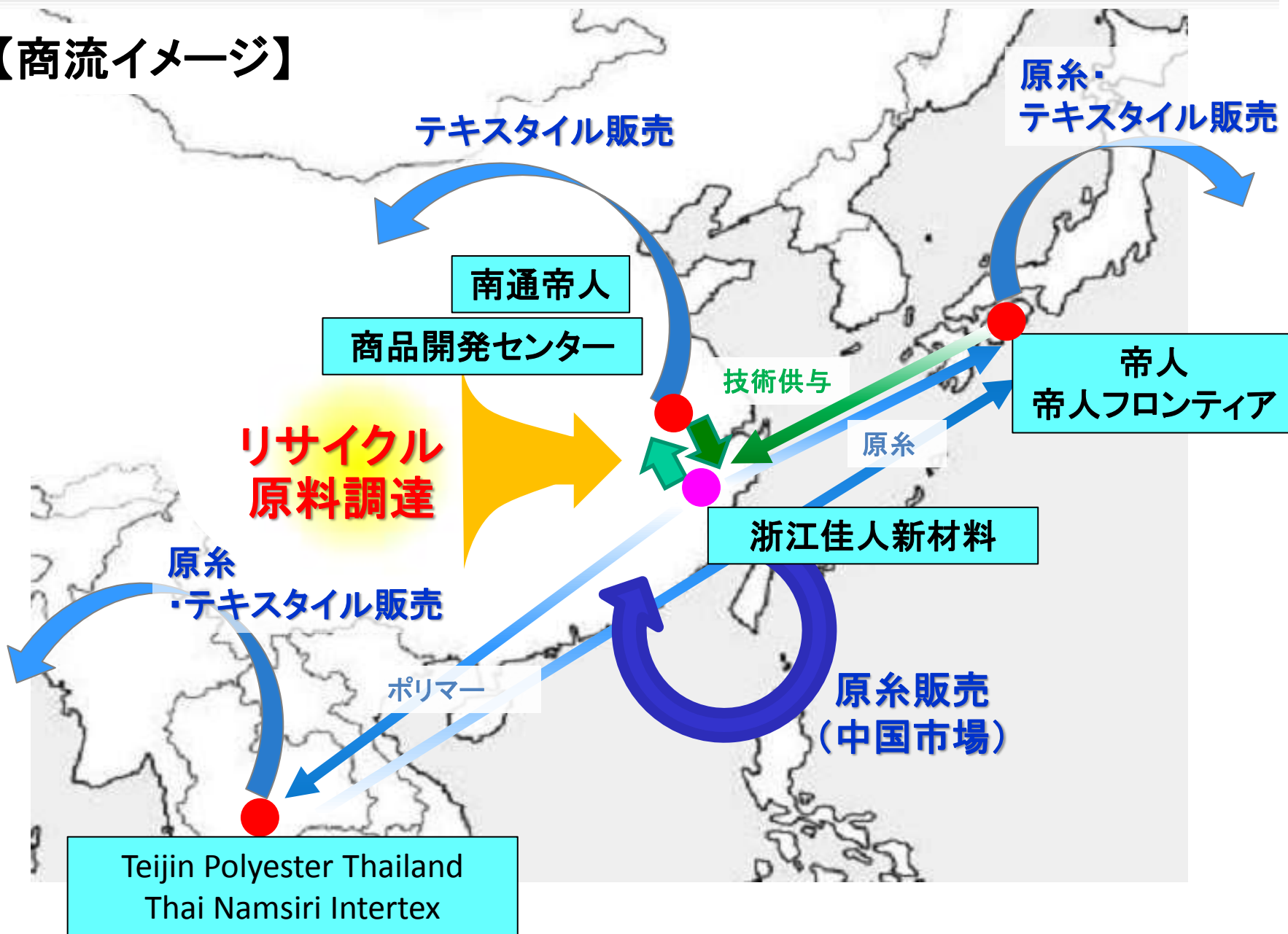
⇒グローバルでのエコサークル商流の拡大展開

【ケミカル・リサイクルの基本概念】



- ・化学的に分子レベルまで分解、高純度ポリエステル原料にまで再生
⇒品質劣化を回避
- ・ポリエステル製品から異物を除去する高度技術

【商流イメージ】



ライフプロテクション

◆アラミド繊維：新興国への防弾・防護衣料用途 展開

- 潜在的なマーケットを有し、今後の急速な販売拡大が見込まれる中国・アジアの用途展開を加速するため、中国・上海に技術サービス拠点(アプリケーション・ラボ)を設立
- 販売拠点(テイジン・アラミド・アジア)に併設(2012年9月)
現地用途開発の支援・顧客へのプロモーションを促進

◆高機能ポリエチレン：能力増強へ

- 超高強度テープ「Endumax」
：薄型や平坦な形状の製品を効果的に補強
(防弾プレート、耐衝撃・衝突プレートなど)

防弾用途において、パラアラミド繊維とのシナジー追求

- 2011年10月 商業生産を開始、すでに複数の顧客に向け採用、更なる拡販を図る
- オランダ(エメン)工場にて
生産能力 1,000トン/年に向けて設備増強を推進中(～2012年末)

パラアラミド繊維

高機能PE



Soft Ballistics



Hard Ballistics



【建材用途への応用】

アムステルダム市立近代美術館 (2012年9月新装オープン)

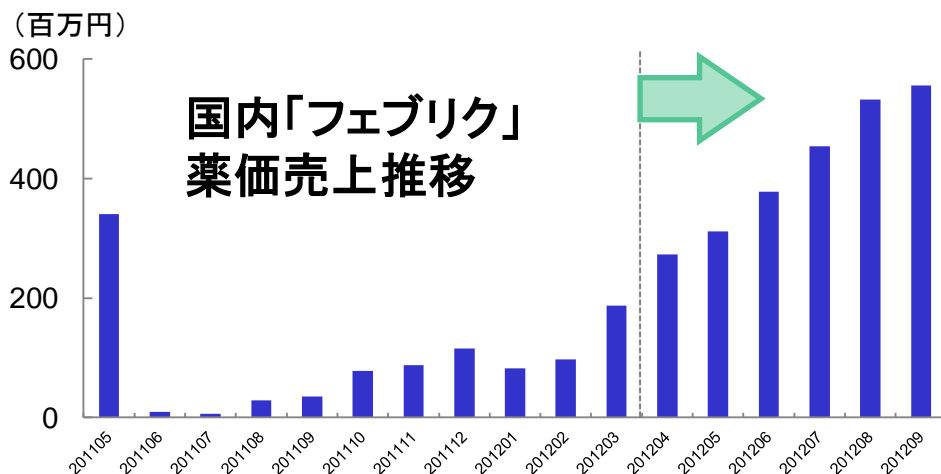


アラミド繊維と炭素繊維による世界最大のコンポジット建造物
高い強度に加え、熱膨張の影響を最小限に

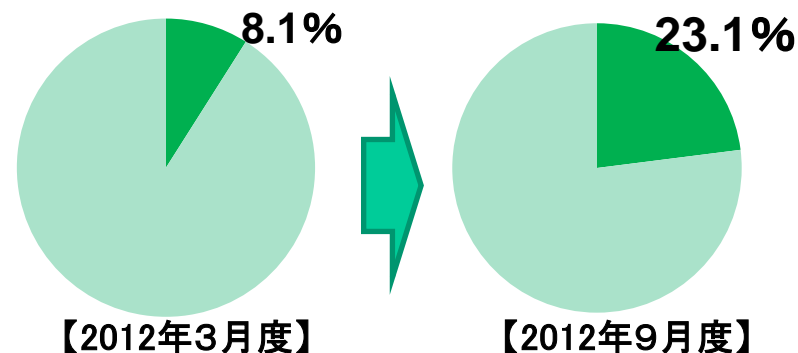
ヘルスケア

◆痛風・高尿酸血症治療剤(フェブキソスタット)の伸長

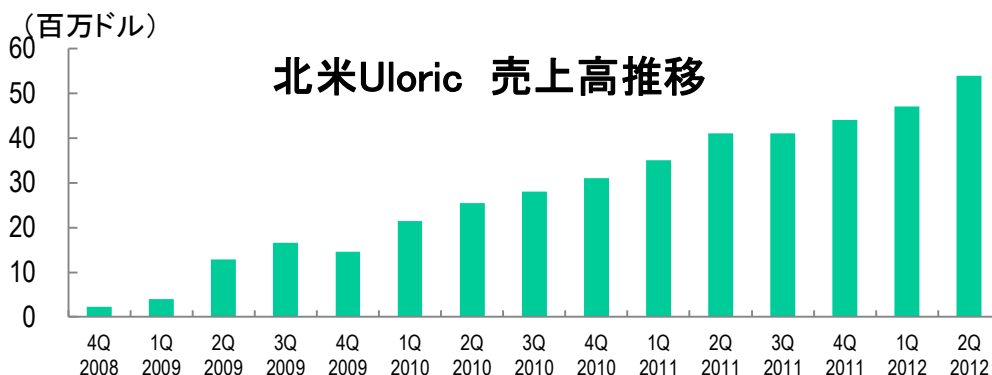
・国内販売は4月の長期処方解禁を契機に順調に拡大



痛風・高尿酸血症治療剤における「フェブリク」シェア推移



・米国リウマチ学会の痛風治療のガイドラインにおいて尿酸降下薬の第一選択薬として明記 (2012年9月～)



⇒ 更なる拡販の足がかりとしてプロモーションを強化

Copyright 2012 IMSジャパン(株)
 出典: IMS医薬品市場統計2012年3月MAT、2012年9月MATをもとに作成
 無断転載禁止

◆ 医薬品の開発状況

(2012年9月末現在)

臨床開発段階

領域	開発コード	対象疾患	Phase1	Phase2	Phase3	申請	承認／ 新規上市
骨・関節	GTH-42V	骨粗鬆症					2012年5月販売開始
	ITM-058	骨粗鬆症					
	GTH-42J	骨粗鬆症					2012年8月販売承認取得
	KTP-001	腰椎椎間板ヘルニア					
呼吸器	NA872ET	去痰					
代謝・循環器	ITM-077	2型糖尿病					
	ITM-014	先端巨大症、下垂体性巨人症					2012年6月販売承認取得
	NTC-801	心房細動・粗動					
	TMG-123	2型糖尿病					
その他	GGs-MPA	顕微鏡的多発血管炎					
	TV-02H(中国)	尋常性乾癬					

新規追加

□ 前臨床段階の導入状況

2012年9月、英Pulmagen社と気管支喘息治療薬「ADC3680」導入のライセンス契約を締結

◆新規ヘルスケア事業の開発

開発は順調に進捗

* 上市5年後の売上高

ターゲット領域	プロジェクト	技術優位性	目標売上高 (億円)*	2012	2016	2020
DDS (薬物送達基材)	経皮投与デバイス (ワクチン)	生分解性素材 微細成形技術	200~ 300		臨床開発	
						上市
再生医療/ 組織修復材料	インジェクタブルゲル (癒着防止)	広い術野に適応 取扱い容易	100~ 150		臨床開発	
	組織修復材料 (複合シート)	優れた操作性 組織追従性	300~ 400		臨床開発	
	細胞医薬品 (脳卒中治療)	骨髄由来細胞を用い 安全かつ量産可能	100~ 150		臨床開発	上市



マイクロニードル



インジェクタブルゲル

【その他プロジェクト】



骨充填材料



人工血管

コストダウンの推進

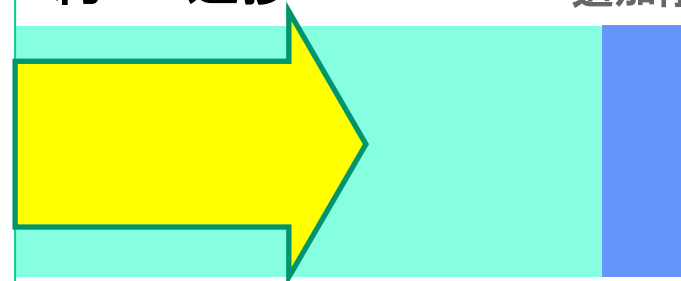
- ・当初目標 120億円に対し、追加で対策を実施
⇒総額 140億円の削減を目標として、各プロジェクトを推進中
- ・上半期は60億円超のプロジェクト実行(最終目標に対し40%超)

◆比例費コスト削減

- ・輸入品調達、複数購買
- ・原料切替 安価原料・リサイクル原料活用
- ・原料/動力原単位の低減
- ・物流費低減

約50%進捗

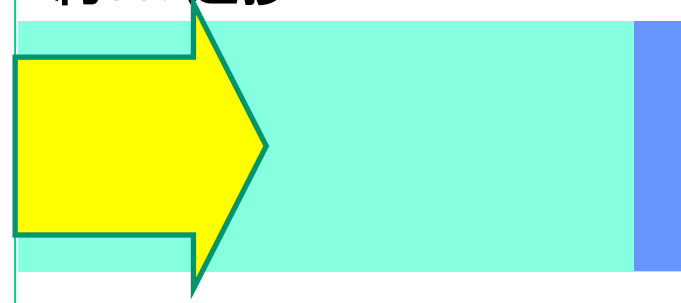
追加削減



約35%進捗

◆固定費コスト削減・全社プロジェクト

- ・補修費削減
- ・諸経費削減(購買一括化 推進)
- ・販売促進費用等見直し



(8) 主要経営指標

	08年度 実績	09年度 実績	10年度 実績	11年度 実績	12年度 見通し
ROA：営業利益／総資産	1.9%	1.6%	6.1%	4.5%	3%
ROE：当期利益／自己資本 ^{*1}	-12.3%	-12.4%	9.1%	4.2%	1%
売上高営業利益率	1.9%	1.8%	6.0%	4.0%	3.2%
D/Eレシオ ^{*2}	1.18	1.18	0.94	0.89	0.9
自己資本比率	35.0%	33.0%	37.3%	38.3%	37%
1株当たり当期純利益(円)	-43.7	-36.3	25.6	12.2	3.0
1株当たり配当金(円)	5.0	2.0	5.0	6.0	4.0
総資産(億円)	8,742	8,231	7,615	7,621	7,600
有利子負債(億円)	3,613	3,203	2,674	2,610	2,500
EBITDA(億円) ^{*3}	853	753	1,050	863	750

*1 「当期純利益÷自己資本」にて算出

*2 「有利子負債÷自己資本」にて算出

*3 「営業利益+減価償却費」にて算出

見通しに関する注意事項と事業等のリスク

見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

事業等のリスク

業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

① 競合・市況変動にかかもの

帝人グループは市況製品を展開しており、景気動向、他社との競合に伴う市場価格の変動、購入原燃料の価格変動、また為替、金利といった相場の変動により事業業績が大きく左右されることがあります。

② 製品の品質にかかもの

医薬医療事業においては、生命関連商品を取り扱っているため、製品の欠陥により、業績、財務状況、社会的評価等に悪影響を及ぼす可能性があります。

③ 医薬品の研究開発にかかもの

医療用医薬品の開発には、多額の費用と長い期間がかかるうえ、創薬研究において、有用な化合物を発見できる可能性は決して高くありません。また、種々の要因により承認申請を断念しなければならない可能性があります。また、承認申請した後でも承認が取り消されることがあります。

④ 海外活動にかかもの

海外での活動について為替変動に係るリスクのほか、予期しない法律・規制の施行、不利な影響を及ぼす租税制度の変更、経済変動、政変・テロ・戦争等による社会的混乱により、経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

⑤ 事故・災害にかかもの

大規模な自然災害や不慮の事故等により生産設備が損害を受けた場合や原材料の供給等サプライチェーンに大きな障害が生じた場合は、帝人グループの経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

本資料は、2012年11月2日午前11時30分に公表した弊社決算発表に基づくものです。
本資料に記載された製品名等は登録商標です。

◆セグメント別売上高・営業利益推移(前年対比)

		11年度実績					12年度見通し		
		上期	下期	計	決算期 統一	年間	上期	下期	年間
(億円)									
売上高	高機能繊維・複合材料	716	642	1,358	174	1,532	528	672	1,200
	電子材料・化成品	930	877	1,806	347	2,154	884	916	1,800
	ヘルスケア	680	715	1,395	35	1,430	643	807	1,450
	製品	1,235	1,315	2,550	77	2,627	1,157	1,293	2,450
	計	3,560	3,549	7,110	633	7,743	3,211	3,689	6,900
	その他	375	425	801	0	801	371	429	800
合計		3,936	3,975	7,910	633	8,544	3,583	4,117	7,700
営業利益	高機能繊維・複合材料	52	13	66	6	72	3	2	5
	電子材料・化成品	57	-8	49	-12	37	15	10	25
	ヘルスケア	119	145	264	-5	259	93	187	280
	製品	30	36	66	-0	66	22	38	60
	計	259	186	445	-11	434	132	238	370
	その他	13	24	37	0	37	6	34	40
	消去又は全社	-66	-64	-130	-2	-131	-64	-96	-160
合計		207	146	353	-13	340	74	176	250

(注)平成24年3月期の数値を会社組織改革後の報告セグメントの区分に組み替えて表示しています。

◆ 連結貸借対照表

	11年 3月末	11年 6月末	11年 9月末	11年 12月末	12年 3月末	12年 6月末	12年 9月末
(億円)							
資産 合計	7,615	7,820	7,845	7,758	7,621	7,397	7,318
流動資産	3,369	3,583	3,694	3,756	3,618	3,521	3,507
固定資産	4,246	4,238	4,151	4,002	4,003	3,877	3,810
負債・純資産 合計	7,615	7,820	7,845	7,758	7,621	7,397	7,318
負債	4,538	4,683	4,742	4,697	4,499	4,402	4,330
(内 有利子負債)	2,674	2,846	2,880	2,850	2,610	2,547	2,523
純資産	3,077	3,138	3,103	3,060	3,122	2,995	2,988

* 詳細については決算短信をご覧ください

◆ 連結損益計算書

(億円)	11年度				12年度		11年2Q 12年2Q 比較
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	
売上高	1,896	2,040	2,019	2,589	1,743	1,839	-201
売上原価	1,339	1,479	1,478	1,996	1,275	1,357	-122
売上総利益	557	561	541	593	468	483	-78
販管費	447	465	444	557	439	439	-26
営業利益	110	96	97	37	30	44	-52
営業外損益	18	-8	2	-9	-8	-17	-9
（内 金融収支）	-4	-9	-7	-15	-3	-7	+2
（内 持分法投資損益）	26	13	8	6	4	1	-12
経常利益	128	89	99	27	22	27	-62
特別損益	-1	-19	-18	-27	-25	16	+35
税前利益	127	70	81	0	-3	43	-27
法人税等	59	35	22	32	16	30	-4
少数株主損益	5	6	-0	-0	-2	2	-4
四半期純利益	63	29	59	-31	-16	10	-19

* 詳細については決算短信をご覧ください

◆ 営業外損益

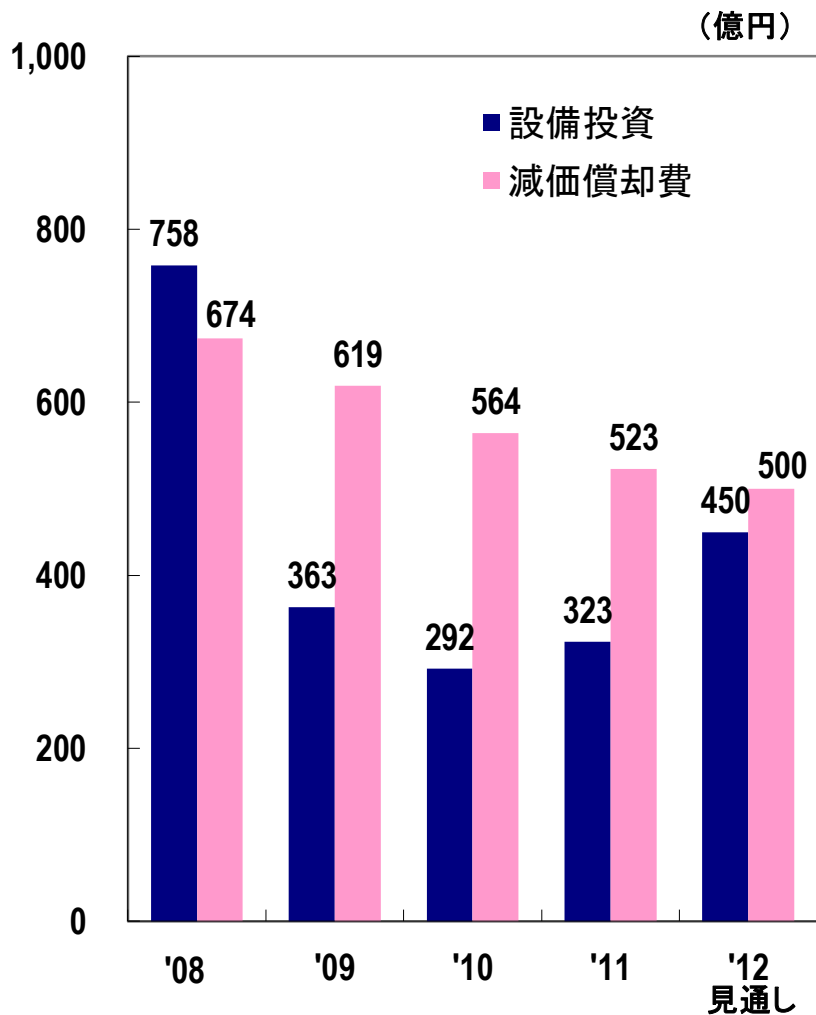
(億円)	11年度 上期	12年度 上期
受取利息	3	2
受取配当金	5	5
持分法による投資利益	39	5
雑収入	5	5
営業外収益 計	51	17
支払利息	21	17
為替差損	8	10
雑損失	12	14
営業外費用 計	41	42
営業外損益 計	10	-25

◆ 特別損益

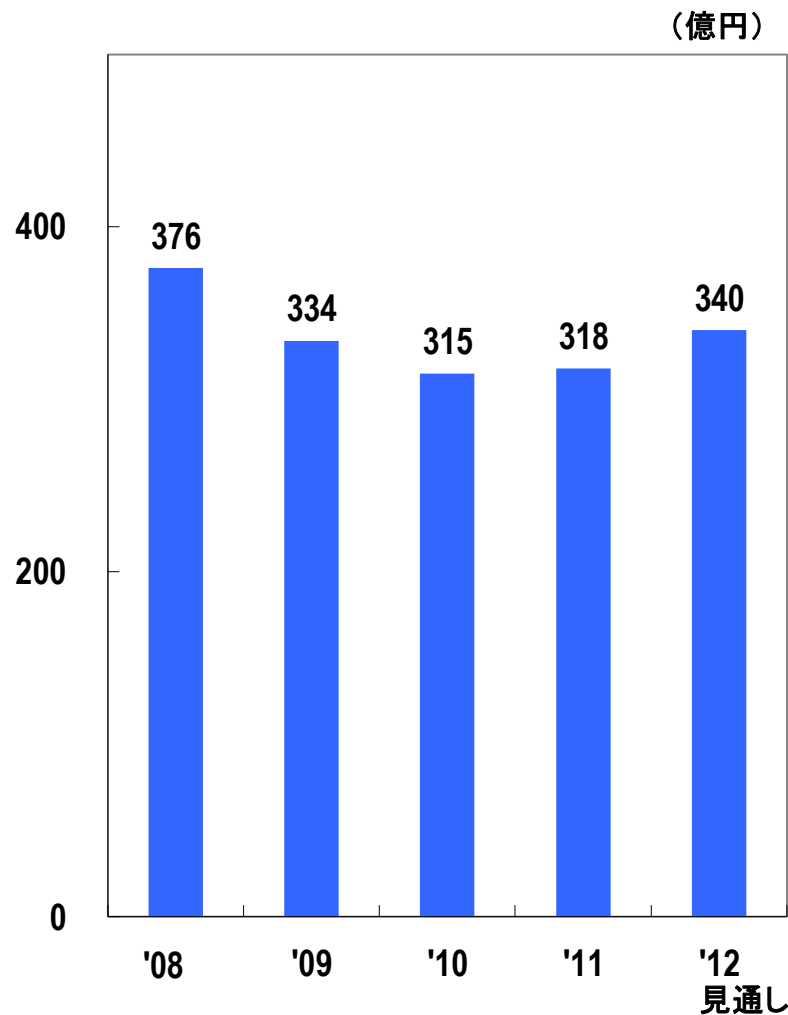
(億円)	11年度 上期	12年度 上期
固定資産売却益	1	8
関係会社株式売却益	7	—
その他	2	0
特別利益 計	10	9
固定資産除売却損	2	4
投資有価証券評価損	7	1
減損損失	10	7
貸倒引当金繰入額	4	—
震災関連費用	4	—
洪水関連費用	—	3
その他	3	2
特別損失 計	29	17
特別損益 計	-20	-9

◆設備投資・減価償却費・研究開発費推移

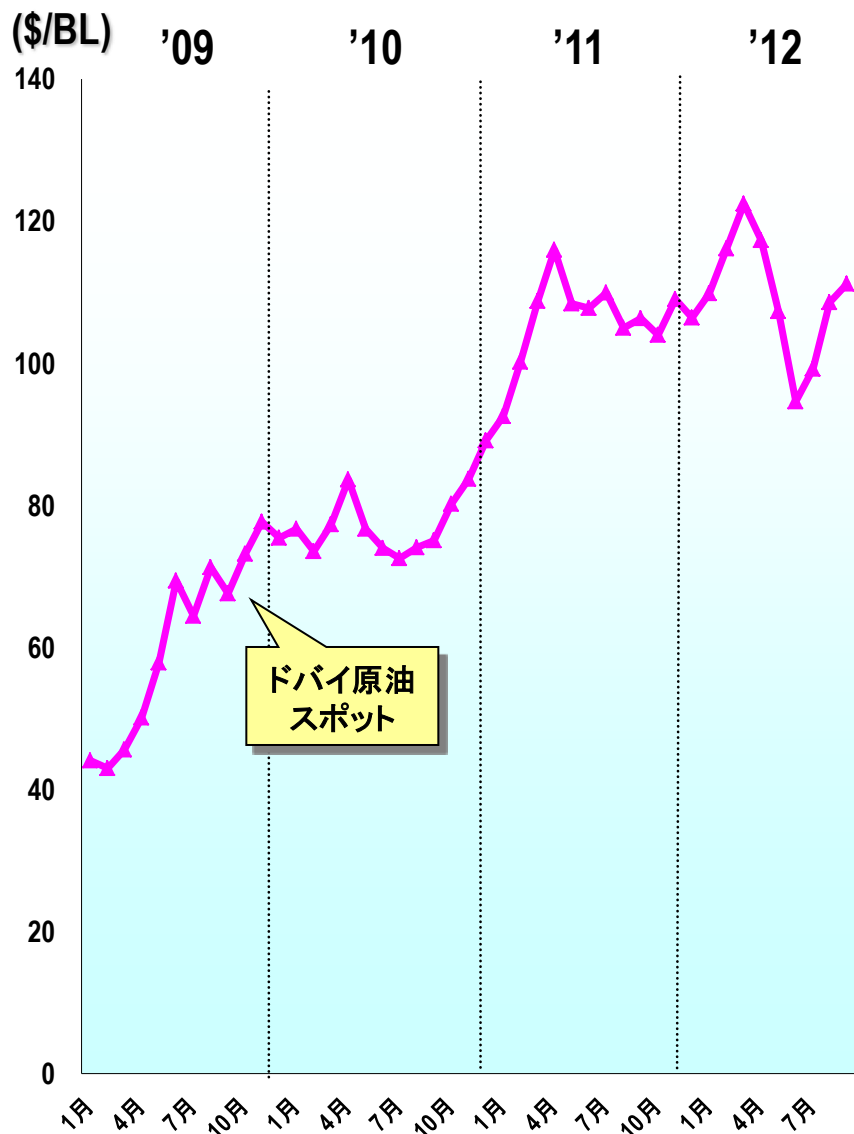
設備投資・減価償却費



研究開発費

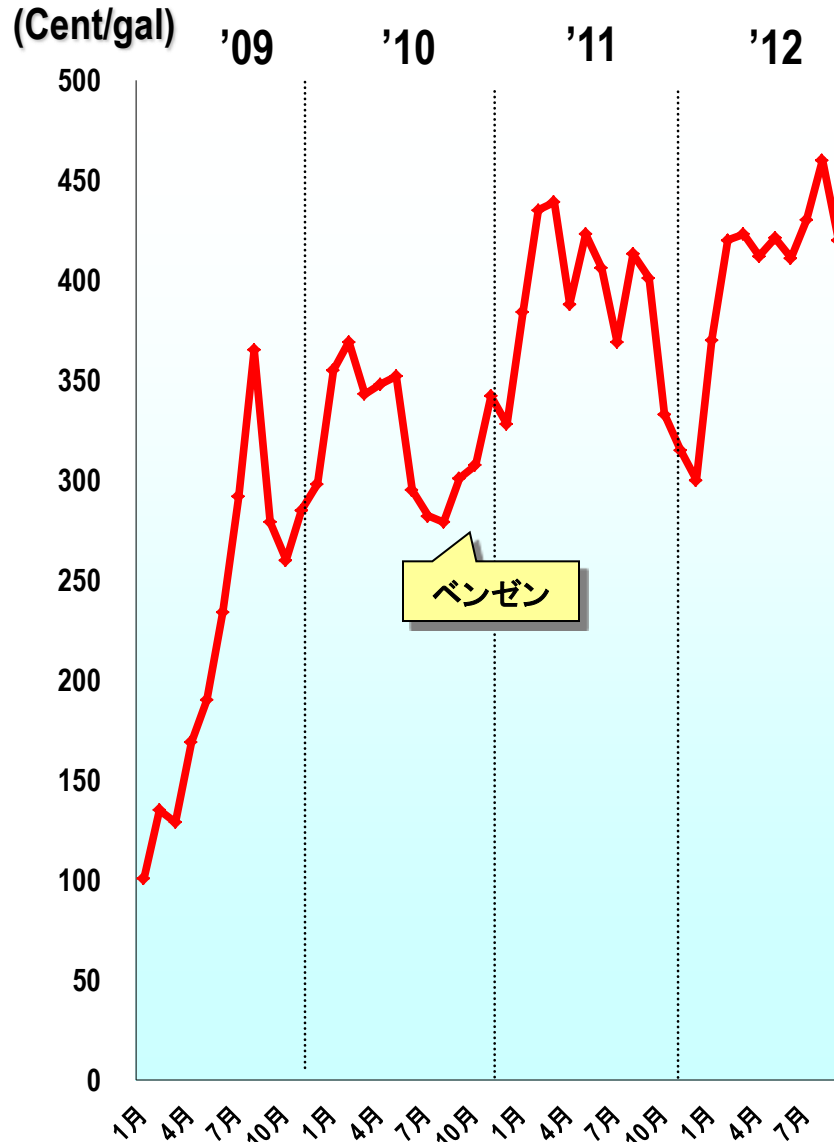


◆ドバイ原油価格推移



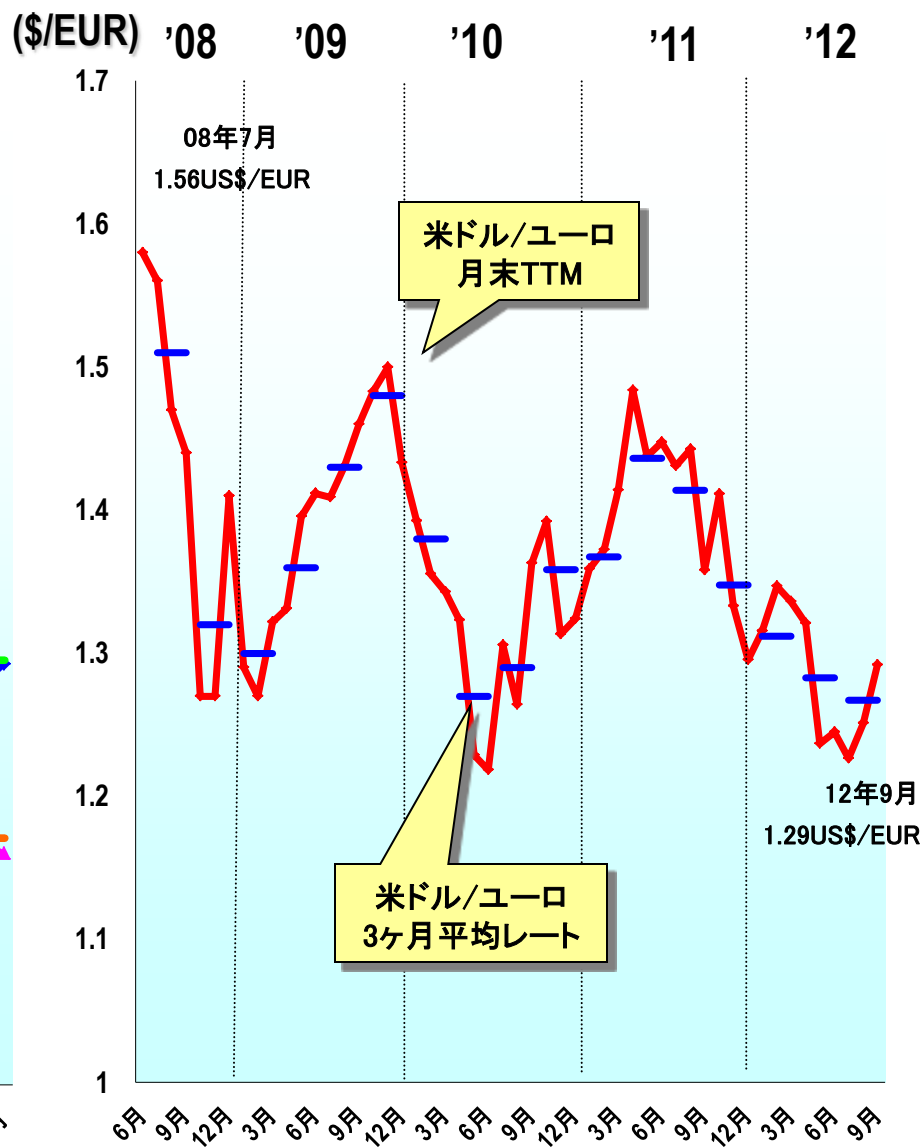
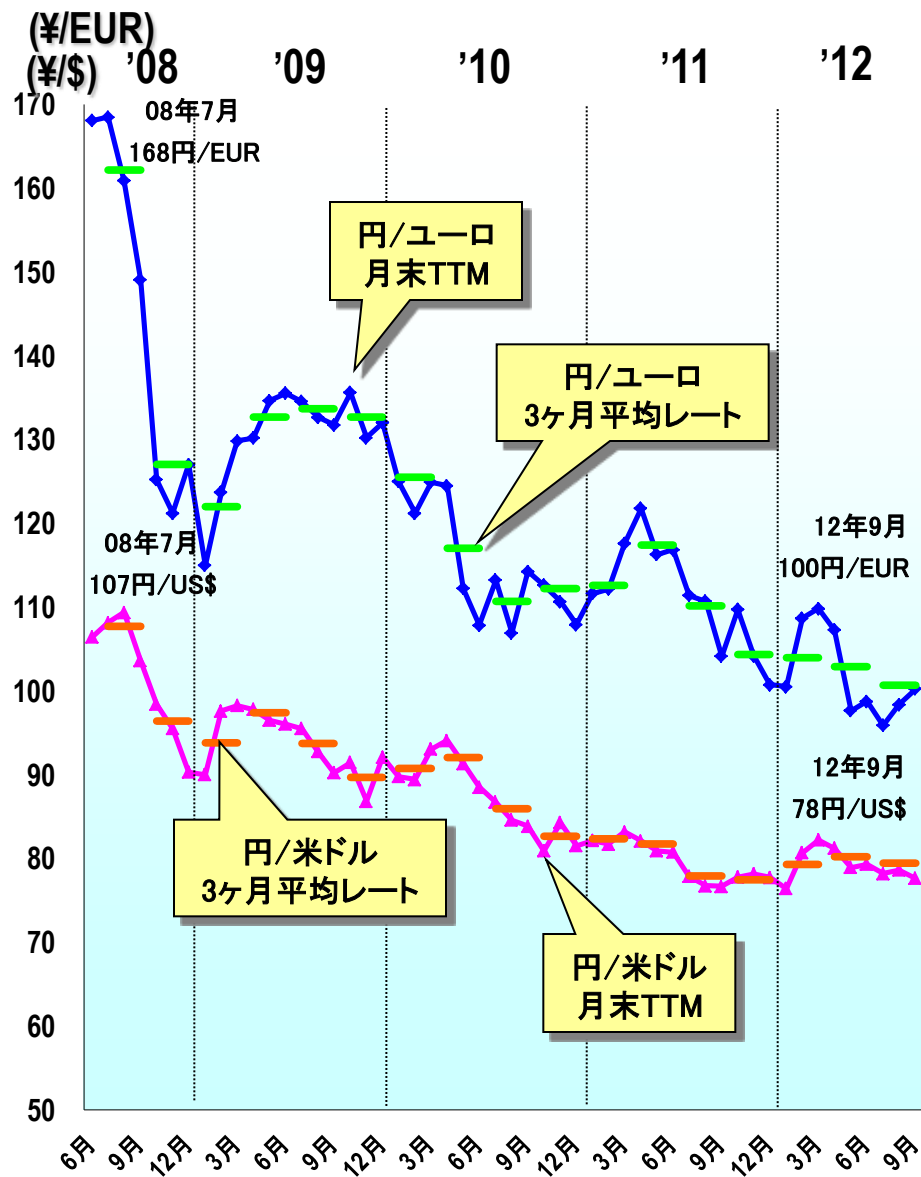
【出所:Platt's社のDATAを基に弊社推定】

◆ベンゼン価格推移



【出所:BZ DewittのDATAを基に弊社推定】

◆円/米ドル、円/ユーロ為替レート推移



◆主要医薬品売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	11年度					12年度	
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q
ボナロン®*	骨粗鬆症治療剤	52	52	54	47	205	33	40
ワンアルファ®	骨粗鬆症治療剤	27	27	30	27	111	18	20
骨粗鬆症治療剤計		79	79	84	74	316	51	60
ムコソルバン®	去痰剤	24	21	30	24	99	21	19
ベニロン®	重症感染症治療剤	23	22	26	23	94	24	24
ラキソベロン®	緩下剤	10	10	11	10	42	10	10
サイビスクディスポ®	変形性膝関節症の疼痛緩和剤	4	4	5	3	17	4	3
トライコア®	高脂血症治療剤	3	4	6	2	15	4	4
ボンアルファ®	角化症治療剤	3	3	4	3	14	4	3
オルベスコ®	喘息治療剤	3	3	3	4	13	3	3
スピロペント®	気管支拡張剤	2	2	3	2	10	2	2
フェブリク®	高尿酸血症治療剤	5	0	1	3	9	7	12

* ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

◆疾患分野別臨床開発段階 (2012年9月末現在)

* 承認/新規上市は直近1年間を記載

	臨床開発段階				
	Phase I	Phase II	Phase III	申請	承認/ 新規上市
骨・関節 領域		ITM-058*2 KTP-001*4			GTH-42V*1 [ボナロン®] GTH-42J*5 [ボナロン®]
呼吸器 領域	NA872ET [ムコソルバン]				
代謝・ 循環器領域	TMG-123*6	ITM-077 NTC-801			ITM-014*3 [ソマチュリン®]
その他		GGs [ベニロン] (適応追加: 顕微鏡的多発血 管炎)		TV-02H [ボンアルファ ハイ軟膏] (中国)	

*1 GTH-42Vは2012年1月に製造販売承認を取得、*2 ITM-058は2012年5月にPhase II 段階へ移行、
*3 ITM-014は2012年6月に製造販売承認を取得、*4 KTP-001は2012年8月に米国でPhase I / II 段階へ移行、
*5 GTH-42J は2012年8月に製造販売承認を取得、*6 TMG-123 は2012年8月にPhase I 段階へ移行

◆前臨床段階の導入状況 (直近3年間を記載)

導入契約	導入元	内 容
2012年9月	英Pulmagen社	気管支喘息治療薬導入のライセンス契約締結

◆新規上市医薬品 (2012年9月末現在)

販売名(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ボナロン® 点滴静注バッグ900μg (アレンドロン酸ナトリウム水和物)	骨粗鬆症	既に販売している骨粗鬆症治療薬 アレンドロネート製剤(ボナロン)の注射剤。 経口剤を服用できない患者等への処方が可能となり、服薬コンプライアンスの改善や経口剤に比べて上部消化管障害の低減が期待される。	注射	導入:米メルク社 2012年5月10日に国内販売開始

◆承認済医薬品 (2012年9月末現在)

販売名(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ソマチュリン® 皮下注 (ランレオチド酢酸塩)	先端巨大症 下垂体性巨人症	先端巨大症及び下垂体性巨人症における過剰な成長ホルモンの分泌を抑制する薬剤。 徐放性と持続的な薬効発現を可能とする製剤処方とプレフィルドシリンジの採用によって、現行の治療薬と比べて利便性とコンプライアンスの向上が期待される。	注射	導入:仏イプセン社 2012年6月承認取得
ボナロン® 経口ゼリー35mg (アレンドロン酸ナトリウム水和物)	骨粗鬆症	既に販売している骨粗鬆症治療薬 アレンドロネート製剤(ボナロン)のゼリー剤。 骨粗鬆症領域の治療薬として世界初のゼリー剤。 良好な食道通過性と型崩れしない適度な硬さを有し、錠剤を好まない骨粗鬆症患者に選択肢を提供できるほか、高齢者に取扱いやすいことが期待される。	ゼリー	導入:米メルク社 2012年8月承認取得

ボナロン® / Bonalon® は Merck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

ソマチュリン® は Ipsen Pharma, Paris, France の登録商標です。

◆新規開発医薬品 (2012年9月末現在)

【申請】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TV-02H (タカルシトール水和物)	尋常性乾癬	国内販売しているボンアルファハイ軟膏 20 μ g/gを中国に導出。既に中国で上市・販売 している低濃度製剤(2 μ g/g)に加えることで、 当該適応症における治療選択肢の幅を広げ ることができる。	軟膏	2010年9月低濃度製 剤に対する補充申請 (中国)

【Phase II】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-077 (Taspoglutide)	2型糖尿病	血中グルコース濃度に依存したインスリン分泌促進作用による血糖コントロール薬。低血糖リスクが少なく、体重減少作用を有する。 週1回投与が可能であり、利便性に富む。そのほか、インスリンを分泌する膵臓ベータ細胞の保護および再生作用が期待される。	注射	導入: 仏イプセン社
NTC-801	心房細動・粗動	心房選択的な心房細動・粗動の治療並びに予防薬。 既存薬の問題点である心室性副作用(不整脈誘発作用、心機能抑制作用)が無いことが期待される。	錠剤	共同開発: 日産化学工業
GGs (乾燥スルホ化免疫グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害(多発性単神経炎)を改善することが期待される。	注射	共同開発: 化血研 (適応追加)
ITM-058	骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。 既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と高い安全性(高カルシウム血症のリスク低減)が期待できる。	注射	導入: 仏イプセン社
KTP-001	腰椎椎間板ヘルニア	腰椎椎間板ヘルニアに対する化学的髄核融解療法剤。 生体内でヘルニアの自然退縮に関わる酵素(マトリックスメタロプロテアーゼ)と同じ構造のヒト型タンパク質であることからアレルギー反応のリスクが少なく、選択的に作用するため、椎間板周囲組織の傷害性が低いと期待される。手術に代わる低侵襲性の治療法の選択肢を広げることができる。	注射	発明者: 波呂浩孝氏、 小森博達氏 共同開発: 化血研

【Phase I】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
NA872ET (アムブロキソール塩酸塩)	去痰	既に販売している去痰剤アムブロキソール塩酸塩(ムコソルバン)の小型徐放錠。 ムコソルバンLカプセルより小さいため、服薬しやすく、分包性に優れることが期待される。	徐放錠	導入:独ベーリンガー ・インゲルハイム社
TMG-123	2型糖尿病	新規作用機序(肝優位型GK活性化作用)による血糖コントロール薬。 血糖コントロールが不十分な患者で有効性が期待されるほか、高い利便性(1日1回投与、腎機能低下患者で用量調節の必要性低い、薬物相互作用の懸念が少ないなど)が期待される。	錠剤	

TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions

Human Chemistry, Human Solutions

テイジンブランドの約束を“Human Chemistry, Human Solutions”と表現します。

この約束は、「人と地球環境に配慮した化学技術の向上と、社会と顧客が期待している解決策を提供することで本当の価値を実現することに挑戦し続けること」を意味しています。

私たちはこの約束を確実に成し遂げ、企業理念であるQuality of Lifeの向上に努め、社会と顧客から信頼される企業グループであり続けます。